

株式会社 J R 東日本ステーションサービス

代表取締役社長 森山 英彦 殿

J R 東日本輸送サービス労働組合

中央執行委員長 佐々木 宏充

いのちを守る安全行動の確立を求める緊急申し入れ

2023年7月20日、五反田駅 山手線ホーム 7時40分頃 列車見張員担当社員、作業担当社員の2名で線路内拾得を開始した直後、接近した列車に気づかず汽笛吹鳴・非常ブレーキ扱いにより列車が非常停止手配を取る重大な事象が発生しました。

「グループ安全計画2023」では「安全」は人の命を守ること、「安定」は列車の正確な運行を守ることであり、どちらも鉄道にとっては重要であると示されていますが、優先されるべき安全が軽視され、少ない社員数の中で効率的に業務が遂行され、鉄道における仕組みなど教育が不十分で理解できないまま現場での勤務に従事しているのが現場実態であり、今回の事態は起こるべきして引き起こされていると言っても過言ではありません。その意味で、お客さまの命を守るところか自分の命さえ守れない現実に強い危機感を抱いています。

現在発生している事故・事象は、ハインリッヒの法則に照らせば、1:29:300の1にあたる重大事故を引き起こしてもおかしくはない状況下です。発生した現実に、背を向けず向き合い、正しく現場実態を把握し、その背後に潜む要因を明確にすることで真の安全確立に向けた原因究明に基づく安全文化を構築していくことが必要不可欠です。特に、一部箇所にて「3日間を限定し、線路内拾得作業は、抑止完了後に実施すること」との掲示が貼りだされています。この掲示が示す意味は、日々の業務において線路内拾得作業が抑止完了後に行われていない現実であると思えてなりません。

日常の業務における安全性の担保は、変わりゆく状況に踏まえたリスク管理が最も重要であり、現場社員の安全意識の醸成と指導体制が大きく左右することからも、安全に対する知識、指導力、技術力の向上をつくることを通じ、更なる安全性の向上を追求していくことが求められています。

したがって、下記のとおり申し入れを行いますので、労使間の取扱いに関する協約に準じ、団体交渉は信義誠実対等の原則に従い秩序を保ち平和裡に行うことに踏まえて丁寧かつ具体的に回答をすること及び速やかな労使交渉の開催を強く要請します。

記

1. 線路内拾得作業等における「あわや触車」という事象が繰り返し発生していることに対し、見解を明らかにすること。また、現場実態の現実を正しく把握し、組織事故の観点からも個人の責任に転嫁せず、いのちを守ることへの経営責任を果たすこと。

2. 線路内拾得作業およびそれらに関する業務を行う場合には、関係列車の抑止手配を行い実施すること。
3. 鉄道に携わる全ての方のいのちを守るための行動指針を明確にし、全社員を対象とした安全教育を速やかに実施すること。
4. 今申し入れに対する回答及び団体交渉については、速やかに日程調整を図り実施すること。

以 上